

NPO法人「フードバンク関西」理事長

藤田 治さん



米、鶏肉加工品、チョコからパンや野菜、果物を、販売期限超過などの「捨てられていたもの」コレート菓子…。芦屋市受け取る。それらは阪神間や大阪府など各地の児童養護施設やホームレスを無償で譲り受け、福祉に「捨てる」活動。2003年の「フードバンク関西」の設立後、尼崎市ボランティアに誘われ、消費・賞味期限が切れるが、日本では広く行われていた「フードバンク関西」の活動に携わるように。当日のように大手スーパーの前で品質に問題はないは十数年前にすぎない。

福祉の現場 食で支援

時の本業は運送会社社長。「仕事以外のことでは、住んでいる地域にお返しをしたかった」という。

食品の提供企業を探すのに苦労した。趣旨を説明した小冊子を200社に送ったが、返事は1社もなし。それでも活動を続けるうちに協力企業は増えた。現在は34社から月平均10社強、年間約140トンの余剰食品の提供を受け、70超の団体に分配している。

一度でも事故が起きたら致命的な打撃となる食品メーカーやスーパーにとって、活動への協力はリスクがある。「だからこそ感謝し、積み上げてきた信頼を裏切らないようにしないと」と表情を引き締める。「活動がもっと認知され、各地に取り組みが広がれば」

昨年、運送会社の社長職を退いたものの、今も「一社員として」勤務。数年前に肺がんの手術を受けたが、引退する気はなく、活動と仕事の両立を続けるという。個人会員の寄付は10千円から。フードバンク関西(芦屋市呉川町1の15) ☎0797・34・8330

年間140トンを集め提供

ひと探訪

もならんのにアホやな、と言われ続けている」と笑う62歳。

記事・切實滋巨
写真・田中靖浩

(横顔)